

# 質 問

## 不育症治療費助成制度について

内田精彦 議員

### 町長 人口減少問題を考慮し 十分検討する



**問** 一般不妊治療助成事業、特定不妊治療助成事業の成果について。

**答** 内田健康づくり推進課長  
一般不妊治療助成事業 H22年度8名、H23年度8名、H24年度8名、H25年度17名、H26年度2月末で4名である。このうち新規の申請者の延べ人数は29名。妊娠が確認された方は12名で、すべての方が出産されている。特定不妊治療助成事業は H22年度4名、H23年度5名、H24年度4名、H25年度8名、H26年度2月末で3名である。このうち新規の申請者の延べ人数は14名で妊娠されたのは6名。すべて出産されている。

**問** 妊娠しても流産か死産を繰り返してしまうのが不育症と呼ばれる。不育症は誰にでも起こりえることで、何度流産しても運が悪かった、次はきつと産めるといわれ、治療法があることも知らずに悲しい思いを繰り返している女性がいる。この不育症について、どのように思っているのか。

**答** 内田健康づくり推進課長  
妊娠するものの流産や死産を2回以上繰り返す赤ちゃんが得られない病気であると聞いている。本町においては、数年に1人であり、過去20年間で2名である。

**問** 不育症は適切な診断と治療を受ければ8割以上の患者は出産できるとされている。小さな命を守るため認知度向上や公的支援の拡大が望まれているが奥出雲町で不育症治療に公的支援が考えられないのか。

**答** 不育症の治療費助成制度については、人口減

少問題を考慮し検討する。

**問** 現在消防団員は43人の定員割れである。部によつては4名・5名体制の部もある。このような状況に対し町はどのような対策を考えているのか。

**答** 総務大臣から消防団の充実強化に向けた要請もあり、町長としても三役課長会において職員消防団への加入促進を図っている。今後は消防団地元、自治会の協力のもと団員確保に向け取り組み考えている。

**問** 消防格納庫の状況は、

**答** 川本総務課長  
詰所つき格納庫30棟、格納庫のみ15棟となっている。今後の整備計画は施設の老朽化等を考慮し消防団と相談し有利な起債等の導入を検討し進めていく。

**問** 詰所施設の構造について。

**答** 川本総務課長  
近年建設の施設は車両一台を格納する土間、畳敷きの待機場所、流し、



整備が待たれる格納庫

水洗トイレとなっている。シャワーは設置していない。

**問** 団員の出勤及び警戒手当に、昼と夜に差をつける事はできないか。夜間いつでも出勤しなければならぬ消防団であるが、改正する考えは、

**答** 川本総務課長  
夜間手当について現在県内において制度化している市町村はない。今後他の市町村の動向を勘案し慎重に精査する。